建築とまちづくり No.520　2022 June

タイの住まいづくり・まちづくり(10)

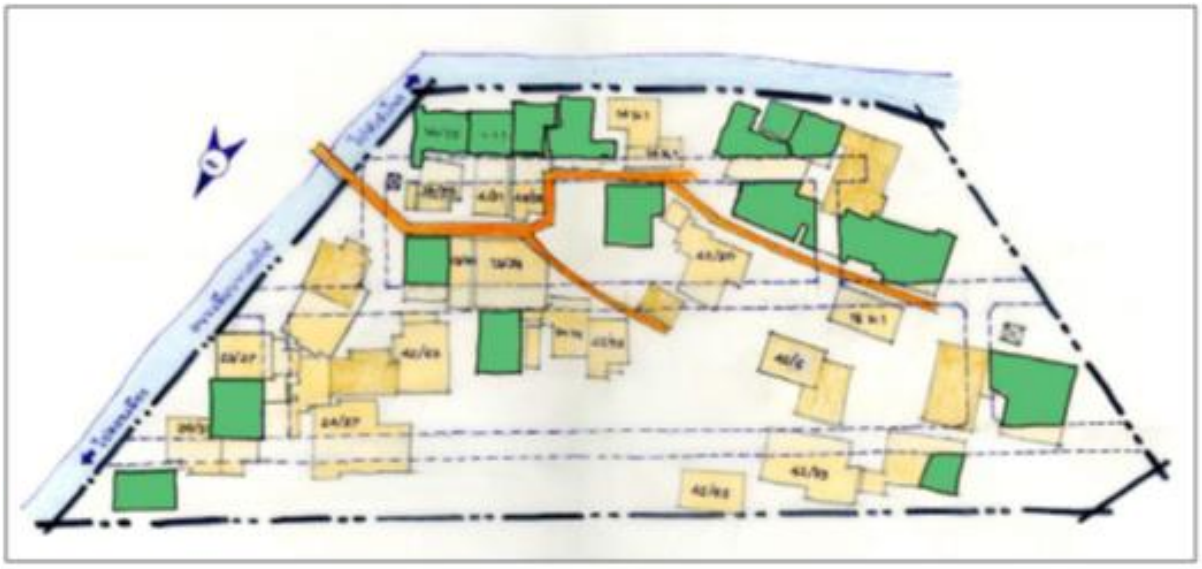
パイロット地区：チャロエンチャイ ーバーン・マンコン事業2

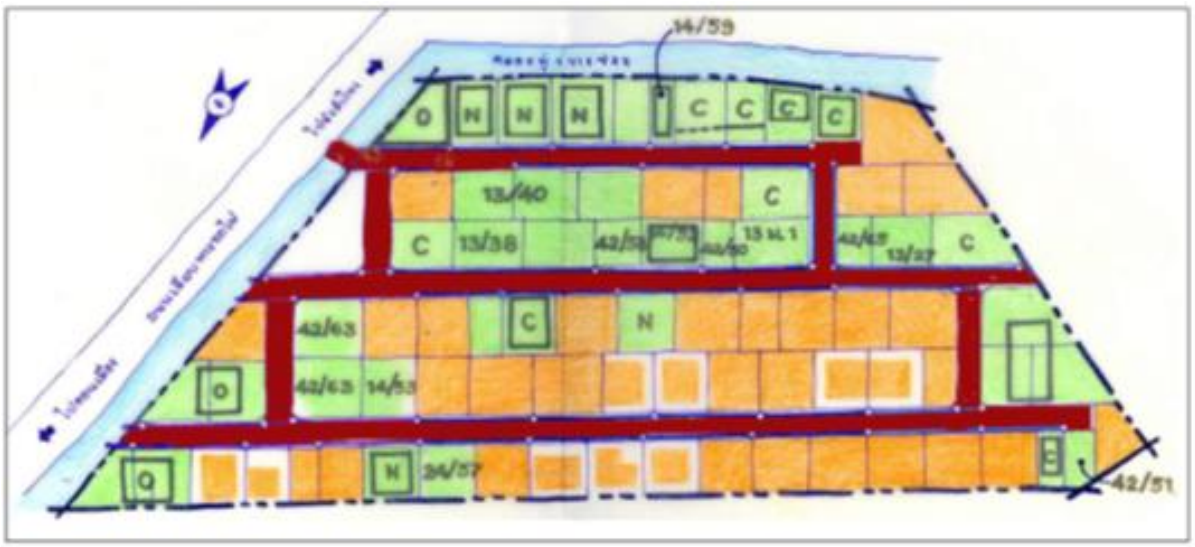
石原一彦(立命館大学教授・新建京都支部)

■掲載写真・図

事業前の地区の状況。低湿地であるため簡単に水につかる。(出典 Charoenchai　Nimitmai：Case studies of collective housing in Asian cities series・March 2021)

事業前の地区の状況。道路も未舗装で狭小であった。(出典 Charoenchai Nimitmai：Case studies of collective housing in Asian cities series・March 2021)





上：事業前の状況。緑色は存置・移築住宅。

下：事業後の直線格子型配置。薄緑色は従前居住者の住戸。

（出典 Charoenchai Nimitmai：Case studies of collective housing in Asian cities series・March 2021）

チャロエンチャイ・ニミットマイ地区の入り口。

事業後の状況。共同の 50 ㎝の植栽帯がわかる。

現在の状況。２ｍ程度の区画道路のところもある。

現在の状況。

整備された住宅。地区の中では比較的上質の方である。

3 階建て住宅もある。おそらく、最近建替えられた住宅だろう。

コロナ対応の手洗いと手作りの消毒液噴射設備（キーボックスのように見えるもの）。

生業としているリサイクル・ゴミの集積・分別場所。

コミュニティ・キッチン。

ヒアリング時にコミュニティ・キッチンで作られ提供された昼食。有料であった。これもコミュニティの生業。

コミュニティ・ファーム。